

18	豊田	朝日丘中学校	ミズタニ ナオキ 氏名 水谷 直紀
分科会番号	3	分科会名	社会科教育（中学校）

**社会的な見方・考え方を働かせ、
仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす生徒の育成**
－第2学年社会科（歴史的分野）「産業の発展と幕府政治の動き」の実践を通して－

I 主題設定の理由

近年、Society5.0 時代の到来に伴い、社会は急速に変化し、将来の予測が困難な時代を迎えている。そのような社会においては、変化する課題に主体的に向き合い、多様な他者と協働しながら解決策を考えることのできる資質・能力の育成が求められている。社会科においても、社会的事象を多面的・多角的に考察し、よりよい社会の実現に向けて考えようとする態度を育成することが重要な課題となっている。

本校の生徒は、社会科の学習に対して意欲的に取り組む姿が見られる一方で、歴史的事象を現在の社会や自分自身の生活と関連付けて捉えることに課題がある。また、授業において自分の考えを表現することはできても、他者の考えを取り入れながら自らの考えを再構成したり、学習した内容を社会参画の視点から捉えたりする力は十分ではない。

そこで、本研究ではサードプレイス（家庭や学校とは違う学びの場）である豊田市博物館と連携し、地域教材として豊田市博物館に所蔵・展示されている七州城図や伊能忠敬関係資料に着目した。生徒にとって身近な地域の歴史を題材とすることで、歴史を自分事として捉えさせるとともに、地域社会の発展に関わった人々の営みについて探究的に学ぶことができると考えた。さらに、学習用タブレットを活用して継続的に考えを共有し合う場を設定することで、生徒が多様な視点に触れながら歴史的事象への理解を深め、社会的な見方・考え方を働かせることができると考えた。

以上のことから、地域教材を活用した探究的な学習を通して、生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら仲間と協働し、よりよい社会づくりへの参画意識を高めていくことを目指して、本研究主題を設定した。

II めざす生徒像

生徒の実態を踏まえ、めざす生徒像を以下のように設定した。

社会的な見方・考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす生徒

Ⅲ 研究計画

(1) 研究の仮説と手立て

サードプレイスと連携し、身近な地域素材を基に探究課題を設定するとともに、拳母藩の歴史的資料を根拠として探究を進め、学習用タブレットの発表ノートを継続的に活用することで、生徒は、社会的な見方・考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画意識を高めることができるだろう。

<手立て①> 豊田市博物館にある七州城図や伊能忠敬の古文書を活用した探究課題の設定

単元の導入や習得の場面では、サードプレイスである豊田市博物館を訪れ、「七州城図や伊能忠敬」に関わる展示物を観察、調査する。博物館には、江戸時代の拳母藩の様子が分かる七州城図や伊能忠敬の古文書や地図等が展示されているため、生徒たちは江戸時代の拳母藩に興味や関心をもつだろう。そこで抱く疑問や思いをもとに探究課題を設定すれば、仲間と共に社会的事情を探究する意欲を高めることができると思う。

<手立て②> 資料の掲示と考える時間の確保

生徒が主体的に資料を読み取り、多面的・多角的に考察するために、授業のはじめには課題意識をもてる資料を掲示したり、豊田市の概要版である『豊田市のあゆみ』や副読本『はばたく豊田』などの資料を掲示したりする。グループ学習や全体での話し合い活動を単元に位置付け、生徒達が掲示した資料を読み取ったり、話し合ったりしながら、学びを深めていく活動を授業の中心に据える。そうすることで、それぞれの立場の「考えの違い」が分かたり、「新たな考え」が芽生えたりすることが期待できる。このような経験を積むことで、生徒は様々な問題に対して多面的な視点から物事を考え、課題を自分事として解決していく大切さを知ることができるだろう。

<手立て③> 探究的な学びのために継続的な学習用タブレットの発表ノートの活用

生徒が単元を貫く課題「江戸時代の拳母藩の人々はどう生き抜いたのだろうか」に対して、探究的な学びをしていくことで、「自分がこだわる点」「大切にしたい点」が徐々に明確になり、より自分事として解決していくことができると考えた。より多くの生徒の考えや意見を効率的に学級全体で知るために、毎時間の学習課題に対して考えたことや、単元を貫く課題について考えたことを、授業の終わりやグループ学習の度に学習用タブレットの発表ノートで提出する。ライブ公開された発表ノートをお互いに見合い、気づいたことを伝え合う場を設けることで、拳母藩への興味・関心を持続させたり、グループ学習による追究を連続したものにさせたりすることができるだろう。

(2) 単元構想

時数	段階	学習課題と生徒の思い・考え	探究的な学びのための支援
1	出会い	学習課題 「朝日丘探検探究一挙母の城下町を調べよう」 ・ 挙母の人たちは米以外にも蚕を飼育して生糸や絹糸の原料となる繭(まゆ)を産業とした養蚕(ようさん)の町として栄えていたんだね。	・ 地域の歴史に関心をもつために、豊田市博物館の七州城図を調べ、当時の人々の暮らしについて考える時間を設定する。 ・ 主体的に学ぶ意欲を高めるために、生徒の振り返りから探究課題に近い感想を抜粋する。 サードプレイス
		探究課題(単元を貫く課題) 江戸時代の挙母藩の人々はどう生き抜いたのだろうか	
2	習得	学習課題 「江戸時代の貨幣経済は、人々にどのように広まっていったのか」 ・ 米の生産力が高まったので、商品作物を栽培したよ。 ・ 諸産業が発達したことで貨幣経済が広がったよ。	・ 唐箕や千歯こきなどの農具や生産性の向上を理解させるために、教科書や資料集を活用した調べ学習の手法を紹介する。
3		学習課題 「交通路や都市は、どのように発展したのだろうか」 ・ 三都や城下町では、株仲間を作り町人は大きな利益を得ていたよ。 ・ 街道には宿場が整備されたよ。	・ 生徒の問題意識の流れを大切にしながら、伊奈街道(中馬街道)の宿場町であった足助に関する知識・技能を習得するために、学習用タブレットでの調べ学習の時間を設定する。 個の探究
4		学習課題 「5代将軍徳川綱吉は名君だったのだろうか」 ・ 経済力をつけた町人による元禄文化が栄えたので名君だ。 ・ 貨幣の質を落としたことで物価の上昇を招いたから暴君だよ。	・ 綱吉の時代から、徐々に幕府の財政が苦しくなり、改革が必要になったことを理解させるために、新井白石と元禄文化の資料を提示する。
5		学習課題 「享保の改革は、社会にどのような影響を与えたのか」 ・ 農具や肥料を購入するために、農村でも貨幣が必要となり、貧富の差が拡大したよ。 ・ 百姓一揆や打ちこわしが起こっていたよ。	・ ものごとの関連性や関係性を明確にして、自分の考えを整理するために、スカイメニューを使ってまとめる。 個の探究
6		学習課題 「田沼意次と松平定信の政策では、どちらが優れているのだろうか」 ・ 田沼は年貢だけでなく、商工業の発展に注目した経済政策を採用し、幕府の財政を立て直したよ。 ・ 松平は農村の立て直しと政治の引きしめを目指して寛政の改革をしたよ。	・ 田沼意次と松平定信の共通点や相違点を明確にして、自分の考えを整理するために、思考ツールを使ってまとめる。 個の探究
7		学習課題 「江戸幕府の政策は、国内外からどのようにみられていたか」 ・ 異国船打払令で外国には厳しい対応をしたよ。 ・ 元役人の大塩平八郎は幕府政策を批判したよ。 ・ 天保の改革は反対が多く失敗したよ。	・ 次時への活動につなげるために、江戸幕府の改革までの過程について基本的な知識を習得する。
8		学習課題 「江戸時代に発達した学問や文化は、どのような特徴をもっていたのか」 ・ 江戸では庶民まで担い手とする化政文化が花開いたね。 ・ 挙母藩では崇化館を設けていたよ。 ・ 伊能忠敬は実際にどこを測ったのかな。	・ 挙母藩や伊能忠敬に関する知識・技能を習得するために、学習用タブレットでの調べ学習の時間を設定する。 個の探究
9		学習課題 「江戸時代の挙母藩の人々の生活に迫ろう」 ・ 養蚕や米づくりが盛んだったのかな	・ 歴史的事象が身近な地域に影響を及ぼしたことを実感するために、学習用タブレットでの調べ学習の時間を設定する。 個の探究
10		学習課題 「古文書を読み取り伊能忠敬の日本全国のみつを解き明かそう」 ・ とよたを測量したルートはどこかな。 ・ 55歳から71歳まで日本中を歩いた健康法とは何かな。 ・ 正確な日本地図づくりのための測量技術とは何だろう。 ・ 測量以外の目的はなんだろう。	・ 歴史的事象が身近な地域に影響を及ぼしたことを実感するために、博物館で実物をみたり、学芸員から専門知識を学んだりする場を設定する。 サードプレイス
11・12 本時	活用	学習課題 「江戸時代の挙母藩の人々はどう生き抜いたのだろうか」 ・ 音楽で学んだ挙母祭りも関係しているかもしれない。 ・ 藩校の崇化館から当時の生活を調べようかな。 ・ 伊能忠敬の地図作りに協力したことで測量日記に当時の生活が書いてあったな。 ・ 挙母藩の2万石は現在の60億円になるんだね。 ・ 財政難や家臣団の対立で苦しんでいたんだね。 ・ 大雨や矢作川洪水の水害で年貢収入が減少したんだね。 ・ 綿(わた)の町として栄えていたんだ。	・ 自信をもって発表するために、教科書や書籍の資料から根拠を明確にして自分の考えを表現させる。 ・ 小グループでの話し合いや全体での意見交流を通して、自分の考えと他者の考えを比較させて関連付けたりすることで、自分の意見を再構築させる。 集団の探究 個の探究
13		学習課題 「次の時代に求めるものはなに？」 ・ 鎖国をするのではなく、外国とはどんな交流をするべきか。 ・ 武士が勝手に政治をしたから、多くの人で話し合って決めた方がいいんじゃないかな。 ・ 豊田市博物館を紹介したい。 ・ 自動車産業の技術を生かした環境に優しい製品を広げる。 ・ 挙母祭りに参加して、豊田の自然や文化を知ってもらいたい。	・ 生徒の探究をより深め、歴史を学ぶ意義を理解するために、江戸幕府が滅んだ原因から、明治時代がどうあるべきかを考える。 集団の探究
【単元後の生徒の思い・考え】 現在の豊田市は自動車産業を中心に発展しているが、江戸時代では養蚕の町として栄えていた。伊能忠敬が豊田市にきたことで、挙母藩の交通網が便利となり発展するきっかけになったと考えた。地域を学ぶことで、経済面や地理の知識も必要となるので、多面的、多角的に学習を主体的に学びたいと強く感じた。今後は地域の一員として自分にできることを考えたり、行動したりしていきたい。			

IV 抽出生徒について

抽出生徒 A

生徒 A は、意見を発表することは得意だが、自分の意見に固執してしまう部分がある。また、歴史の学習に対しては時代によって興味・関心に偏りがある。過去が現在につながっているという認識が弱く、歴史を学習する必要性をあまり感じていない。そこで、探究活動において、多様な価値認識に触れることで、歴史的事情を多面的・多角的にとらえて思考を深めていってほしいと考えた。豊田市の歴史に触れ、過去の出来事を学ぶことで、その知恵を現在・未来へつないでいってほしいと願い、本実践の抽出生徒とした。

V 研究の実際と考察

(1) 博物館にて七州城図と出会い、探究課題をもつ生徒A（手立て①）

単元との出会い（第1時）の場面で、豊田市博物館を訪れた。そこで、本時の学習課題「朝日丘探究—拳母の城下町を調べよう」のもと、拳母藩の様子が分かる七州城図の地図を活用し（**手だて①**）、これらを観察、調査する場を設定した【資料1】。また、その際にタブレット端末を使用して、発表ノートに、発見したことや気になったことを書き込むように伝えた。すると、生徒Aは七州城図から鉄砲山や畑が多いことを見つけ、「鉄砲山があるから朝中がある」「畑が多いから、武士以外は自給自足の生活かもしれない」等つぶやきながら【資料2】のように気づきをまとめた。他の生徒も同様に拳母藩の七州城図に興味や関心を抱いている様子が見られたため、探究課題を「江戸時代の拳母藩の人々はどう生き抜いたのだろうか」に設定し、探究していくことにした。



【資料1】七州城図で調べる様子

今日の振り返り

地図の左上に鉄砲山らしき山があることからその周辺に今の朝中があることがわかりました。また家来や偉い立場の人たち以外の人の多くは畑の周辺にることから、自給自足が生活の中心だったのかなと思いました。城や家以外に建物がなかったので、畑仕事以外に何をしていたのかも気になりました。

【資料2】生徒の振り返り

(2) 探究課題を解き明かすために知識を習得していく生徒A（手だて③）

探究課題の対象である拳母藩があったころの江戸時代の様子を知るために、江戸時代の農業や諸産業の発達、財政悪化に伴う様々な改革を学ぶことにした。学んだ後は必ず、毎時間振り返りをライブ公開された発表ノートに記入し、気づいたことを伝え合う場を設けた（**手だて③**）。生徒達は、江戸時代の半ばから後半にかけて安定した社会が続く中で、産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていく国内の産業の変化や幕府が財政を立て直すことができず、改革が失敗に終わる過程を学んだ。天保の改革の学習を終えた後の、生徒Aの振り返りには「天保の改革は節約を重視したため、百姓や商人の不満を解消するためには、娯楽や税を下げたりする政策をするとよい」【資料3】と書いた。振り返りの時間を確保し気づいたことを伝え合う場を確保することで、幕府の諸課題に対して、「税を下げる」「娯楽を増やす」といった、既習の知識を生かした振り返りができていることがわかった。

今日の振り返り

幕府の政策に異国船打払令があったけど、よくないと思いました。その理由は、日本が鎖国したのは、貿易によって伝えられたキリスト教が幕府よりも権力を持ちそうになったからだけど、外国の船が宗教を伝えるのか伝えないのかを確認すれば良いだけだと思ったからです。天保の改革は、節約を重視した政策をとっていたけど、それだと百姓や商人に対する不満が溜まるだけなので、もっと百姓たちの娯楽を増やしたり、税を下げてやる政策を取れば良いのでは、ないのかなと思いました。

【資料3】生徒の振り返り

(3) 仲間と関わり合いながら社会的な考えを深める生徒A（手だて①②③）

単元の習得の最後の授業である化政文化を学習した後、幕府の命を受けて拳母藩を訪れた伊能忠敬を取り扱うことで、生徒が探究課題にせまることができるのではないかと考え、豊田市博物館の企画展と連携することにした。

生徒に豊田市博物館の伊能忠敬の企画展のポスターを見せ、「伊能忠敬がなぜ拳母にきたのか」と教師が問いかけると、生徒たちは、「資源や食料の補充のためじゃないかな」「観光しに来たんじゃないかな」などの反応があった

今日の振り返り

伊能忠敬は午前のときに10KMくらい歩いていたらしいので測量し終わった午後に拳母藩によって休憩がてら観光しにきたのかと思いました。伊能忠敬が拳母藩を観光していたら住んでいる人々とどのようにかかわったのか調べたいです。

【資料4】生徒の振り返り

【資料 4】。そこで、生徒には、次時の授業を、探究課題を解決するために豊田市博物館に行き、伊能忠敬の古文書や地図等を観察・調査し、博物館の職員の方に直接質問できる場にとすると伝えた（手だて①）。

授業後、生徒がまとめた発表ノートには「測量日記には土地の情報だけではなく、過去の出来事まで書いていて、衝撃を受けた」など、既習の知識を生かして、今回の学びを関連させて考える生徒が見られた。生徒 A は職員の方に質問しながら主体的に活動する姿が見られた【資料 5】。

博物館の学習後、より拳母藩のことについて調べたい生徒のために、教師側から豊田市の概要版である『豊田市のあゆみ』や副読本『はばたく豊田』の資料を提供した（手だて②）。そこでは、伊能忠敬（武士）、崇化館（教育）、拳母祭り（文化）に分かれて調べ学習を行った。生徒たちは、多くの資料から根拠になるものを見つけ、それを基に自己の考えを深めていた。「藩校の崇化館には、藩の収入の 1 割を出費して設立された」など藩校の崇化館が人々に大きな影響を与えたことに注目したり、「綿製品の良いのは拳母である」という書物から、副業として木綿生産が行われていたことに注目したりしていた【資料 6】。

これまで、探究課題に対して、伊能忠敬（武士）、崇化館（教育）、拳母祭り（文化）の視点で、様々な方法で調べ学習を行ってきたことを基に、ジグソー学習で話し合いを行った。生徒 A は調べたことを学習用タブレットを使いながら自信をもって発表していた。話し合いの振り返りでは、生徒 A は、「木綿で稼いだ費用は、崇化館や七州城の建設、矢作川の氾濫対策に使用したので、自然や建造物などに関わりあっている」【資料 7】と、級友の発表を受けて産業に目を向けていることが分かる。多くの生徒も生徒 A 同様ライブ公開された発表ノートに記入し、気づいたことを伝え合うことで仲間の意見や自分の意見と比較したり関連付けたりすることで、より理解を深めることができた【資料 8】（手だて③）。ジグソー学習後全体で共有した際にも、級友の発表に納得する様子や他の立場の意見を聞いて考えに変容が見られるなど、この学習を通してそれぞれの拳母藩の歴史的特色について「考えの違い」が分かったり、「新たな考え」が芽生えたりしていたと考える【資料 9】。

調べ学習や話し合いを終え、探究課題のまとめとして「豊田市のために今を生きる自分たちになにができるか」と教師が問いかけると、生徒の振り返りには「身近なところから川やまちをきれいにしたい」「安全に優しい交通マナーをひろげていきたい」「山車を舞台に子ども歌舞伎が披露され街の人々におもてなしをしていたので、



【資料 5】職員の方に質問する様子

今日の振り返り

この時代で、孝母と崇化館の人々は勉学への意識が高まったと思います。その理由は、1788年から1893年にかけての5年間にかけて藩校崇化館を設立して、その時の出費は、藩の年貢収入の1割を占めており、大変な出費だったので、藩の勉学に対する関心が高いことが分かる。この地域の人々の数百年が通ったとされ、のちに教養になる人もいたことから、藩士たちに大きな影響を与えた。このようなことがあったから、今の崇化館中学校などがあるのではないかと考えた。

【資料 6】生徒の振り返り

今日の振り返り

僕は、孝母の産業について調べて、木綿の産業の盛況ぶりや、木綿産業の歴史を調べたりなど、産業の視点でしか調べていなかったけど、授業を通して、木綿で稼いだ費用を崇化館や七州城の建設、矢作川の氾濫対策などのことにあてているなどの意見が出てとても納得できました。崇化館は、年の藩の収入の1割もの大金を使って建てられているので、確かに木綿のお金を使わないとまかなえないなと思いました。なので産業は、自然、建造物などのいろいろな面と関わり合っていることが分かりました。

【資料 7】生徒の振り返り



【資料 8】まとめる様子



【資料 9】全体での共有

伝統を引き継いでいきたい」などの反応があり、郷土を愛する気持ちが芽生えたことがわかる。社会に自分から積極的に参画していこうとする気持ちを、生徒たちがもつことができたのは本研究が目指す姿であったと考える。

VI 成果と課題

(1) 研究の成果

手立て①について、サードプレイスの豊田市博物館の七州城図や伊能忠敬展を実際に観察・調査する場を設定したことで、生徒たちは拳母藩の産業や暮らしについて理解するとともに、地域の過去と自分たちの未来をつなげて、より問題意識を高めることができた。単元を通して意欲的に学習する姿が見られたことにより、手立て①は有効であったと考える。



【資料 10】発表する生徒

手立て②について、全ての実践を通して、拳母藩の歴史的特色をつかむために様々な資料を掲示することで生徒達の資料を見る目が養われ、資料から思考・判断する機会をつくることができた。資料を関連付けて考える生徒が増え、互いに自分の考えを主体的に伝え合う場をつくることができたことから有効であったと考える【資料 10】。

今日の振り返り

拳母藩を百姓の面から見ると、矢作川の氾濫により、本業である米作りが不作だったり重い年貢があったり、崇化館を建設したり、七州城を建設していたりして、財政は、貧しかったと思いました。そんな拳母藩の人々が生活できたのは、副業である木綿の売れ行きがとても良かったからだと思いました。木綿が百姓の生活を支えただけでなく、拳母藩の取り組みまで実現できるほど売れたため、拳母藩の人々は生き抜いていったのかなと思いました。

でも、江戸時代後半から、木綿産業は徐々に衰退していったので、拳母藩や百姓はまた貧しくなったと思いました。でも、江戸時代から明治にかけて、木綿産業から海外の需要を考え、元々江戸時代の伝統産業である製糸業に移っていった事が分かりました。製糸業は三河発祥で、綿織物やのちのトヨタ自動車につながったとされ、三河の産業の中でも、木綿と製糸業をしていった人々は生き抜いたと思いました。

【資料 11】生徒の振り返り

手立て③について、ライブ公開された発表ノートを活用することで、一人一人の考えを記入し、集約する時間が短縮でき、互いの考えを見合うことに多くの時間を使うことができた。それにより、生徒の考えを焦点化して話し合うことや、互いの考えを参考にして、新たな考えをする生徒の姿を見ることができたことから、有効であったと考える【資料 11】。

(2) 今後の課題

今回の研究でめざした「社会的な見方・考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす生徒の育成」とは、生徒たちが予測困難な時代を生きるために必要な資質・能力の育成である。自分達の力で自分の属する集団や社会をよりよくすることができるという経験が、社会参画をしようとする主体性を高めていくことであることを、本研究を通じて強く実感することができた。この世の中をつかっていく未来ある生徒たちがより主体的に社会参画できるように継続して取り組んでいきたい。

今回の実践では、生徒が課題意識をもち、考えたいと強く実感できる資料掲示をすることや、自分とは違う立場で考えをまとめる機会をもつことが難しかった。このことを反省し、日々の授業では、同じテーマで対照的な資料を比べたり、振り返りでは授業で意識した立場と見えてきた課題を考えさせたりすることで、課題意識を高めていきたい。